

研究課題	おいしい野菜のブランド化・伝統野菜の維持保存（寄居カブの展示栽培）
背景・ねらい	全国各地で伝統野菜の再評価が行われ、その文化的な価値が見直され、地域おこしに役立てられている。新潟市においても量販店流通が主流になる中で、大量生産向けの改良品種が一般的になり、特徴のある伝統野菜が姿を消しつつある。しかし、現在の一般品種には無い独特の食感、野菜本来の味と香りなどの特徴を持つ伝統野菜を維持・保存し、地域の資源として継承する必要がある。
担当者名	鍋田慎介 三浦雅子 船木武人 小田切文朗
研究期間	2014 年～（継続 5 年目）

## 1 目的

新潟市内を中心に伝統野菜の探索を行い、情報・種苗の収集、特性調査・再評価を行い、優良系統の選抜とその系統の栽培技術を確立し、産地を支援する。また、他市の事例調査、伝統野菜の定義の確立もはかる。本試験では寄居カブの展示栽培を行い、加工などのサンプル、指導などの教材として活用する。

## 2 方法

(1)供試品種 寄居（新潟県保存系統）

(2)試験区の構成・規模 春作、秋作とも 1 区制 10 m<sup>2</sup>程度

(3)耕種概要

ア 播種 春作 4 月 12 日 秋作 9 月 6 日, 8 日, 14 日

イ 栽植様式:

春作 畝幅 1 m 株間 10 cm, 3 条播き, 条間: 20 cm, 栽植密度 30,000 株/10 a

秋作 畝幅 1.2 m 株間 10 cm, 3 条播き, 条間: 25 cm, 栽植密度 25,000 株/10 a

ウ 施肥・基肥 (kg/10 a) 春作 N-P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>-K<sub>2</sub>O=18.0-9.0-20, 堆肥施用 もみがら堆肥 4,000

秋作 N-P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>-K<sub>2</sub>O=20.3-17.8-18.8, 堆肥施用 もみがら堆肥 4,000

エ 被覆: 黒マルチ 春作・秋作の両作型 ベタがけ: 春作のみ (播種後から 5 月 8 日まで)

## 3 結果の概要

(1) 経過の概要: 春作, 秋作とも圃場の排水が悪く, 発芽後, 所々株枯れが発生した。収穫時期は小カブサイズで春作は 5 月下旬, 秋作で 10 月上旬以降となった。後半にしろさび病が発生した。

(2)結果

ア 展示の内容

(ア) 所内の視察で紹介した。

(イ) 「フードメッセ in にいがた」に株を展示した。 11 月 7～10 日

(ウ) 採種用の母本選定の講習のため, サンプルとして活用した。 11 月 24 日

イ サンプル提供

(ア) アグリパーク食品加工支援センターの加工・調理講習会用に提供した。

10 月 17 日, 24 日, 26 日

干しかぶ (乾燥させたカブ) 加工用, 実物の展示, 生での調理などに使用した。

ウ 教材として活用

(ア) 新潟大学農学部インターンシップの教材として使用した。 期間 8 月 30 日～19 日

(イ) 中央区の新潟市立白山小学校 4 年生の「地域の伝統を知る」学習に。中央区の伝統野菜である寄居カブを栽培, 調理 (味わう), 利用 (地域で料理に生かす, 知ってもらう), 保存 (採種保存) を行うという授業の一貫で, アグリパークのアグリスタディプログラムの実施時 (10 月 18～19 日) に教材として使用した。 10 月 19 日

エ その他

記録のための写真撮影用サンプルに使用した。

オ 以上により、新潟市の伝統野菜「寄居」カブを展示栽培することにより、多くの市民の方々に紹介でき、有効に活用できた。特に学校教育に活用できたことは、地域の文化と合わせて維持保存されていくのが有効とされる伝統野菜にあつて、地域での復活と継承を目指すためにも、地元小学生たちに伝えることができたことは有益と思われた。



写真1 秋まきの生育初期の状況



写真2 秋まき 10月11日の生育状況



写真3 春作の収穫物草姿



写真4 秋作の収穫期の草姿



写真5 フードメッセ会場の展示状況



写真6 採種母本用株の草姿  
(9月14日播種分)



写真7 寄居の加工「干しかぶ」  
(食品加工支援センターで製造)



写真8-1 調理実習  
干しかぶを水で戻す



写真8-2 調理実習  
戻し終わった干しかぶ  
水気を絞って使用する



写真8-3 調理実習  
寄居カブを使った  
干しかぶのナポリタン



写真8-4 調理実習  
スライスした生の寄居カブを使っ  
たグレープフルーツとのサラダ

写真9 白山小学校4年生の寄居カブの学習の情景



1 アグリパークで室内勉強

農業活性化研究センター職員より寄居カブの歴史、特徴、種取りの方法などの説明を受ける



2 農業活性化研究センターの圃場へ移動

どうやって寄居カブを栽培しているか、実際の状況を見に出かける



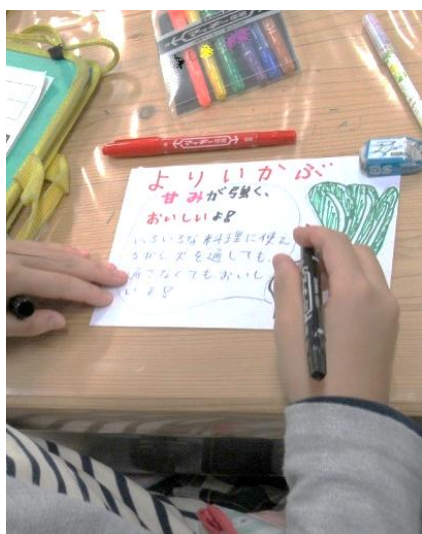
3 カブ畑での生徒たち

各自、圃場より抜き取り、寄居カブの形状を実際に確認し、色々と調べるサンプルにした



4 寄居カブを実際に食べてみる

収穫した寄居カブを、葉も根部もともに試食し、特徴を確認した



5 学習したことをまとめる

寄居カブについて学んだことを最後に各自工夫しながら書いてまとめている

